

现代日语阅读教程

1

● 高等学校教材

● 王秀文 主编 李庆祥 副主编

高等学校教材

现代日语阅读教程

1

王秀文 主 编
李庆祥 副主编

高等教育出版社

(京) 112 号

内 容 提 要

本书共收入 25 篇文章,并配以形式新颖的练习,可供日语专业学生用作泛读课教材,其他专业学习日语的学生用作阅读教材。

本书选文体裁多样,题材广泛,可读性强,尽量不选用国内教材已选入的文章。练习中配有与课文内容相近的短文,对提高学习者阅读兴趣、扩大知识面和词汇量均有良好作用。

责任编辑 尹学义

高等学校教材

现代日语阅读教程

1

王秀文 主 编

李庆祥 副主编

*

高等教育出版社出版

新华书店总店科技发行所发行

国防工业出版社印刷厂印刷

*

开本 850×1168 1/32 印张 5.5 字数 140 000

1994 年 9 月第 1 版 1994 年 9 月第 1 次印刷

印数 0001—2 185

ISBN7-04-005075-7/H·569

定价 3.20 元

编写说明

《现代日语阅读教程》是为适应我国日语教育的发展和日语教学的需要而编写的辅助性教材,主旨在于通过有指导的大量阅读,提高学生阅读理解和外语思维、分析的能力,巩固所学语言知识,扩大知识面和词汇量,丰富日语语感等,以达到运用日语进行交际的目的。适用于日语专业的泛读课、大学日语的阅读课和各类日语教学单位的教学,也可供广大自学日语的人员使用。

本套教程分为四册,每册 25 课,供教学单位选择使用。每课由课文、ことばの説明、練習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ等部分构成。课文选入的文章均系原文,并力避国内其它教材中已出现的文章。文章长度以 1500 字左右为起点,渐次增加至 3500 字左右,在编排上考虑了难易程度的循序渐进、由浅入深。选材时充分注意了文章的思想性、实用性、知识性、科学性和趣味性,同时也兼顾文章题材的广泛性和体裁的多样性。为扩大学生视野和知识面,还有意选用了个别从语法和句子结构角度来看不是太规范的文章。

“ことばの説明”部分,从课文中提出影响阅读、理解的词语 2% 左右,标注日语读音或汉字,并注以中文对应词或解释。对少量意思上一目了然,但发音有些难度的汉语词汇和一般性人名、地名等在课文中标注“振り仮名”。《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》中规定的词汇原则上不予提出。

练习的编写以努力提高学生的理解能力和突出它在教学中的指导性作用为原则。“練習Ⅰ”以词语练习为主,从课文中提出与文章理解密切相关的词语(包括语法现象)5 个左右作为问题,每个问题后设答案若干,以选择的方式进行语义及用法方面的练习。“練習Ⅱ”以内容练习为主,从课文中提出与文章内容的理解密切相关的问题(包括语法现象)5 个左右,结合文章内容在每个问题

后设答案若干,供选择练习。“練習Ⅲ”结合文章的主题思想和中心内容提出问题2个左右(本项练习从第一册第15课开始设),供学生从语篇的角度进行思考、分析和概括。“練習Ⅳ”为快速阅读部分,每课选择一篇题材和内容与正文相近的短文为语言材料,并从中提出3个左右的问题以选择的方式供理解练习。短文亦均选用原文,选用标准与课文部分相同。这一部分为教学上的补充内容,在时间要求和教学方法上可作更灵活的处理。

《现代日语阅读教程》1~4册由王秀文(辽宁师范大学)担任主编,李庆祥(山东大学)担任副主编。第一册由王秀文、关春影(辽宁师范大学)、刘淑梅(山东大学)、李庆祥编写,在辽宁师范大学任教的高岛康子先生审校了全文。

由于我们经验不足、水平有限,加之时间仓促,错误及不当之处在所难免,欢迎日语界同仁及同学们批评指正。

本套教程第1、2册曾由部分日语专家、教授开会审定,参加审稿会的有(依姓名笔画序):于长敏先生(中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、吉林大学外语学院院长、教授)、尹学义先生(中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、国家教委高等教育出版社编审、教材发展研究所研究员)、刘和民先生(中国日语教学研究会顾问、大连外语学院教授)、刘耀武先生(中国日语教学研究会会长、黑龙江大学外语学院副院长、教授)、胡振平先生(中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、中国日语教学研究会常务理事、洛阳外语学院教授)、徐祖琼先生(中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、日语组副组长、中国大学外语教学研究会副会长、复旦大学教授)。审稿会上,各位专家、教授对本教程给予了充分肯定,并提出了许多宝贵的意见和建议,对此谨表衷心的感谢。

本教程选用的文章涉及到很多作者,由于种种原因难以查询、联系,敬请各位作者谅解,同时在此谨表诚挚的谢意。

最后,本教程的编写和出版得到高等教育出版社外文编辑室

主任尹学义先生的大力支持和帮助,特表谢忱。

编者

1994年3月1日

目 録

第一課	日本の夏	1
第二課	東京の悩み	7
第三課	アジアと日本	13
第四課	練習と人生	19
第五課	日本の水資源	25
第六課	方言	32
第七課	都会といなか	39
第八課	またとない天敵	45
第九課	赤帽子・青帽子	51
第十課	かぶき	57
第十一課	集団論理と日本語	64
第十二課	日本昔話：一浦島太郎 二花咲かじいさん	71
第十三課	日本昔話について	78
第十四課	日本の植物	85
第十五課	わたしの考え	92
第十六課	現代の子供	98
第十七課	日本人の好きな言葉	106
第十八課	泥酔と痴漢	113
第十九課	日本の風土と文化	120
第二十課	師走の市	127
第二十一課	お正月	134
第二十二課	三権分立主義と議院内閣制	141
第二十三課	生物と無生物の区別	148
第二十四課	ほめ殺し	155
第二十五課	ロザリオの鎖	162

第一課 日本 の 夏

日本の夏は暑いと言われている。外人は、夏になると、^{かるい}軽井沢や野尻湖などに避暑をする。たしかに暑いらしい。しかし、日本の夏はなぜ暑いのだろうか。気温が高いからであると言えばそれまでである。しかし、実際はそう簡単ではない。まず、最高気温の記録を調べてみよう。

日本の最高気温の記録は、昭和八年七月二五日に^{やまがた}山形で観測された四〇・八度である。この温度は、人間の体温より高く、したがって、どんなに暑かっただろうと思うであろう。しかしながら、当時の話によると、それほどには思わなかったということである。実は、この気温は、フェーン現象によって起きたもので、多少の風もあり、非常に乾燥していた。人間が感ずる暑さは、実は、気温だけではなく、風や湿度も関係し、また、慣れもある。

このように、暑さというものには問題はあるが、四〇度という暑さは相当なもので、人間の活動はほとんど止まってしまう。しかし、日本の暑さは、世界の記録に比べればものの数ではない。メソポタミアのバスラでは、一九二一年七月八日に五八・三度を観測したことがあるし、北アフリカのトリポリタニアのアジシアでは、一九二二年九月一三日に五八・八度、アメリカのデスバレのグリーンランド・ランチでは、一九一三年十月七日に五六・六度を観測している。

インドあたりでも夏は暑い。このような暑さになると、風はないほうが涼しいのである。家なども^{いしづく}石造りで、日をさえぎり、日中は戸をしめてしまう。日本の夏の常識とは反対である。

が、このほうがこの地方では合理的なものである。人のすわったあとのほうが涼しいので、争ってそのあとにすわるとのことである。このように熱帯に比べれば、日本は暑いとは言われないが、ヨーロッパあたりと比べると、ずっと暑い。これは、日本がヨーロッパより緯度^{いど}が低いことも一つの理由ではあるが、いま一つは、日本の夏が暑いのは、湿度^{しつど}が高いからである。日本では、夏、気温が高く、湿度が大きく、冬は気温が低くて、湿度が小さくなっている。ところがヨーロッパでは、夏、湿度が小さく、冬、大きくなっている。これは、一つは季節風のためである。日本では、夏は南の風で、南方の洋上の湿った高温の空気が流れて来るのに対し、ヨーロッパでは、夏は北東風となり、大陸の乾燥した空気が流れて来るからである。

日本の各地の暑さをもう少し調べてみよう。日本では、一番暑いのはふつう南の九州^{きゅうしゅう}だろうと思うであろう。暑さを何で表わすかは、議論の余地のあるところであるが、月平均の気温でみると、鹿児島^{かごしま}は、八月が十七・一度である。ところが、大阪^{おおさか}は二七・八度であるから、これより高い。また、日中の最高気温を調べてみると、鹿児島は三一・八度であるのに、大阪は三二・八度、京都^{きょうと}ではもっと高く三二・九度で、名古屋^{なごや}では三二・四度である。京都の暑いのは盆地になっているためであり、また、風も弱いので暑さは耐え難い。すなわち、小地形とか、高さ、海などの影響が暑さに対し相当にきいて来るのである。

〔岩波新書、高橋 浩一郎(たかはし こういちろう)：

「日本の天気」による〕

ことばの説明

フェーン現象〔フェーンげんしょう〕

焚风现象

慣れ〔なれ〕

习惯

ものの数ではない[物のかずではない]	不值得一提
メソポタミア	美索不达米亚(伊拉克)
バスラ	巴士拉(伊拉克)
北アフリカ[きたアフリカ]	北非
トリポリタニア	的黎波里塔尼亚(利比亚)
アジシア	阿济济亚(利比亚)
デスバレ	死谷(美国)
グリーンランド・ランチ	格陵兰兰契
熱帯[ねったい]	热带
洋上[ようじょう]	海上
小地形[しょうちけい]	小地形
耐え難い[たえがたい]	难以忍受

練習 I

- 「たしかに暑いらしい」の「らしい」と同じ意味のものを次から選びなさい。
 - このごろの日本の女性はあまり女らしくない。
 - 小さい家で、庭らしい庭也没有。
 - 夜中に雨が降ったらしく、地面がぬれています。
- 「インドあたりでも夏は暑い」にある「あたり」の使い方として、次のどれが合っているか。
 - その手紙は明日あたりには届くでしょう。
 - このあたりは夜になるとさびしいから、一人で歩いてはいけません。
 - 6日間で六千円もらったから、1日あたり千円になります。
- 「人のすわったあとのほうが涼しいので」にある「あと」の意味を次から選びなさい。
 - 前に何かあったところ。

- b. 何かによって残ったしるし。
 - c. 何かのうしろ。
4. 「人のすわった」の「の」と同じ使い方のものを次からみつけたしなさい。
- a. 一番暑いのはふつう南の九州だろう。
 - b. 大陸の乾燥した空気が流れて来る。
 - c. 授業の始まるベルがなっています。

練習Ⅱ

1. 「気温が高いからであると言えば、それまでである」という文のいいかえとして、次のどれが正しいと思うか。
- a. 気温が高いからであるといえばたしかにそうである。
 - b. 気温が高いからであるといえば暑くなるまでである。
 - c. 気温が高いからであるといえば簡単である。
2. 「それほどには思わなかった」の中にある「それ」は次のどれをさしているか。
- a. 人間の体温より高い暑さ。
 - b. 四〇・八度もの暑さ。
 - c. じめじめした暑さ。
3. 「人のすわったあとのほうが涼しい」というのはなぜか。
- a. そこだけは風が通らなかったから。
 - b. 気温が人間の体温より高いから。
 - c. そこが乾燥していたから。
4. ヨーロッパより日本の夏のほうが暑いというのが、その直接的原因を次から一つ選びなさい。
- a. 季節風のため。
 - b. 湿度が高いため。
 - c. 乾燥しているため。

練習Ⅲ

次の文を読んで後の問いに答えなさい。

寒　　い

冬の寒い晩には、こたつに寝ても、ふとんのえりに霜がつく。戸外の霧が樹木につくのが樹氷で、樹木という樹木は、^{はなさかしじい}花咲爺に花をさかせてもらったように白く華やかになる。が、そばに寄って見ると、その無情な美しさにぞっとする。学校に通う時には、髪にまで樹氷がついて、学校に着いた時には、自分も連れも、まるで白髪^{しらが}のおばあさんである。こんな寒い所で、たびもはかずにお使いに行った思い出がたくさんある。冷たい雪合^{ゆきがっ}戦^{せん}もたびはだしでやった。昔の子供のほうが強かったのではないかと思うことがある。

問1.「樹木という樹木」とはどういう意味か。次から一つ選びなさい。

- a. 樹木と呼ばれる樹木。
- b. すべての樹木。
- c. 樹木のような樹木。

問2.「その無情な美しさにぞっとする」にある「ぞっとする」はここで次のどの意味であるか。

- a. 思わず体がすくんだり、身の毛がよだつような様子。
- b. 急に寒さを感じて思わず体がふるえる様子。
- c. あまりに感心した様子。

問3.「昔の子供」とあるが、この「昔の子供」と作者との関係は次のどれか。

- a. 幼いときの作者も含まれた子供。

- b. 作者が含まれない作者の古里の子供。
- c. 全く作者と関係のない昔の子供。

第二課 東京の悩み

現在東京の人々が困っている問題を幾つか挙げてみましょう。

東京は日本の首都であり、また政治、経済、文化の中心地となっているため、日本全国から人々が集まってきています。東京の面積は日本全土の0.5パーセントにしか過ぎません。そこで全人口の約11パーセントもの人々が生活をしているのです。この人口集中が現在起こっているいろいろな問題の主な原因となっています。

まず第一に挙げられるのは住宅問題です。限られた狭い所に大勢の人が住んでいるので、家も土地も足りなくなるわけです。たまに空いた土地があっても、値段が高すぎて簡単には買えません。その結果、自分の家を持つことができずに、借家やアパートの狭い部屋で生活をしている人が東京には大勢います。住まいは人間の生活になくてはならぬものですから、これは極めて重要な問題であるといえるでしょう。

次に交通の問題があります。東京にある会社や役所などは都心に集まっています。日本では、会社や役所の勤務時間はどこでもだいたい9時から5時までと決まっていますから、この辺に勤めている大勢のサラリーマンたちは毎朝同じような時間にここに集まり、毎晩同じような時間にここから帰っていくわけです。東京ではほとんどの人が通勤、通学に電車を利用しています。そのため、朝8時ごろと夕方6時ごろの電車はサラリーマンたち、それに学校へ通う学生たちが加わって、大変込み合います。特に朝のラッシュ・アワーの混雑はものすごく、電車に乗れないでプラットホームに残されることも珍しくありません。また、通勤、通学にかかる時間は1時間から1時間半ぐらいが普通

で、中には2時間以上かかる人もいます。それは、通うのに便利な場所に家を持つことが難しくなり、都心をずっと離れた所に住む人が多くなったからです。この交通の問題も、東京に住む人にとって大きな悩みです。

次に挙げられるのはごみ処理の問題です。人間はごみを出さずに生活することはできません。部屋の整理をしたり炊事をしたりすればもちろん、たばこを吸ってもお菓子を食べてもごみは出てきます。工場からは工場のごみが、家庭からは家庭のごみが出てきます。そして、このごみの量は、当然、生活している人の数に比例して多くなります。東京の人口は日本一ですから、出るごみの量も大変なものです。この沢山のごみをどう始末するかは決して簡単な問題ではありません。焼く場合にしても、埋める場合にしても、その場所が問題になります。狭い土地に人口が集中している悩みはこんなところにも現れているのです。

東京にはそのほかにも、自動車の排気ガスなどに因る「大気汚染」の問題、工場や家庭からの排水のために川の水が濁ってしまうという「水質汚濁」の問題、また夜通し走る自動車の音で寝られないとか、家が密集しているため隣の家のも音で迷惑するとかいった「騒音」の問題など、いわゆる「公害」があって、ここに住む人々の大きな悩みとなっています。

[日本語教育学会、日本事情シリーズ「東京」による]

ことばの説明

幾つか[いくつか]

若干, 几个

空く[あく]

空, 閑

借家[しゃくや]

出租的房屋

都心[としん]

城市中心

勤務時間[きんむじかん]

工作时间

込み合う[こみあう]	人多, 拥挤
ラッシュ・アワー	交通拥挤时间
ごみ処理[ごみしょり]	垃圾处理
排気ガス[はいきガス]	废气
大気汚染[たいきおせん]	空气污染
排水[はいすい]	排水
水質汚染[すいしつおだく]	水质汚浊
夜通し[よどおし]	通宵, 整夜
物音[ものおと]	响动, 声音

練習 I

- 次のa～c各文に用いてある「られる」と同じ意味のものを
用いた文を①～③から選びなさい。
 - 第一に挙げられるのは住宅問題です。
 - 限られた狭い所に大勢の人が住んでいる。
 - 夜通し走る自動車の音で寝られない。
 - ①幼いころの私はいつも先生に叱られていた。
 - ②先生が日本を去られてから十年になる。
 - ③動物園に行けば象が見られる。
- 「自分の家を持つことができずに」にある「ずに」の意味にあて
はまるものを次を中から一つ選びなさい。
 - a. ないのに
 - b. ないで
 - c. なくて
- つぎの各文の－線のついた語の意味を後の①～③から選ん
で、その記号を各文の前の()の中に書き入れなさい。
 - a. ()住まいは人間の生活になくてはならぬものです。
 - b. ()東京ではほとんどの人が通勤、通学に電車を利用し
ています。

c. ()このごみの量は、当然、生活している人の数に比例して多くなります。

①比較のもとになる物事を表す。

②物や状態のある場所や立場を表す。

③動作の向けられる相手になる人や物を表す。

・「焼く場合にしても、埋める場合にしても」にある「にしても」の意味に近いものを次の中から一つ選びなさい。

a. ～に関しても

b. ～に対しても

c. ～にしろ

練習Ⅱ

1. 「この辺に勤めている大勢のサラリーマンたち」にある「この」は何をさしているか。

a. 東京

b. 会社や役所

c. 都心

2. 「狭い土地に人口が集中している悩みはこんなところにも現れているのです」にある「こんなところ」はどんな意味なのか。次の中から正しいのを選びなさい。

a. ごみ処理の問題

b. ごみの出る問題

c. ごみの量の問題

3. 「東京にはそのほかにも、……」にある「その」は何をさしているか。

a. ごみ処理の問題。

b. 住宅問題・交通の問題・ごみ処理の問題。

c. 公害の問題。

4. 「東京の悩み」となる主な原因は次のどれか。一つ選びなさい。